

第45回京都市廃棄物減量等推進審議会における議論について

【開催日時】

- 平成22年4月30日 14:00 ~ 16:10

【委員からの主な発言】

- 郡嶋委員
 - ・ 支出（使い道）だけでなく、収入についての議論も必要
- 酒井委員
 - ・ 有料化財源の収支だけでなく、ごみ処理全体にどの程度の経費がかかっているのかも意識して議論すべきである。
 - ・ 新規・拡充施策に限定することの妥当性についても検討すべき（柔軟にすべき）。
- 黄瀬委員
 - ・ 袋の価格を下げるべき。
- 崎田委員
 - ・ 袋の価格を下げるべきとの声もあるが、全国的に見ても有料化実施都市のごみの減量は一定段階で止まっており、京都市も同様の状況であることから、市民に間違った情報を発信してしまわないためにも、袋の価格は下げるべきではない。
 - ・ 環境モデル都市として、地球温暖化対策において、有料指定袋制にどの程度期待するのかを考えるべき。
- 宮川委員，松原委員など
 - ・ 有料化財源だけではなく、指定袋の製造・流通等に係る必要経費についても無駄がないのか議論すべき。
 - ・ 店舗への指定袋の流通について、無駄をなくすためにも販売実績に基づく支払い方式から、納品時に買い取る方式に変更すべき。
- 田村委員
 - ・ 市民意見を反映させる手法として市民アンケートが提案されているが、必ずしも市民意見を拾えるとは思えないので、例えば、国内や海外での革新的なモデル事例を提示して意見をいただくといったことも必要

第1回有料化財源活用方法検討ワーキングチームにおける議論について

【開催日時】

○ 平成22年6月17日（木） 9：30 ～ 12：25

【委員からの主な発言】

1 有料指定袋の価格について

○ 原委員

- ・ 指定袋の価格は現状維持とすべき。審議会で議論し、市民との意見交換も十分行った上で決めたものであることから、簡単に上げ下げするべきではない。
- ・ 状況を見ながらごみの減量に繋がる取組を併せ技で考えていくことが重要

○ 酒井委員

- ・ リバウンドに気をつける時期に来ていると考えられるので、その状況で価格を下げるにより一層リバウンドが発生する可能性がある。

⇒ 議論を受け、各委員とも、価格はそのまま維持すべきであるとの結論で一致

2 有料化財源活用事業関係者へのヒアリングについて

○ 山内委員

- ・ 食の無駄を減らすことは重要。京都の文化でもあり、そういった意識を掘り起こす事業も必要ではないか。

○ 郡嶋座長

- ・ 市収集による資源分別もよいが、コミュニティ単位での回収も組み合わせで多様化を図ることにより、地域の取組の活性化を図ることが必要
- ・ 地域での啓発については、取り組んでいる人達の具体的内容を地域で共有して広めることが重要。それをサポートする支援が必要
- ・ 市民に理解してもらい、取組の一員になってもらうためには、広報、見える化をもっときめ細やかに充実していくことが必要
- ・ 小さな取組まで支援していくためには、人を育てることへの支援を通じて、人材の掘り起こしと能力の底上げが必要

○ 原委員

- ・ 環境活動への支援は色々なメニューがあると思うが、具体的にどういう支援が必要なのかを、地域から吸い上げて整理した上で議論することが必要
- ・ マンパワーの育成が重要

⇒ 有料化財源活用事業の内容や課題について、問題意識を共有

3 市民アンケートについて

○ 酒井委員（書面にて）

- ・ Q5-1で、有料化財源を活用した事業への意向確認に関する設問について、既存の取組へのニーズだけでなく、新たに考えられる取組（例：リサイクル施設の整備による温暖化対策）への意向を問う設問があっているのではないか。

○ 郡嶋座長

- ・ Q5-1で、有料化財源を活用した事業への意向確認に関する設問について、家庭系有害廃棄物を回収する取組事例を加えてはどうか。
- ・ 情報入手ルートとして、どういう広報媒体を市民が望んでいるのかを聞くことも必要

⇒ 議論を受け、アンケート調査票を修正

